

令和 8 年度

希望が丘高等学校一般入学者選抜試験

国 語

問 題 冊 子

注意

- 1 監督者の開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1 ページから 8 ページまであります。
- 3 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 監督者の終了の合図で筆記用具を置き、解答面を下に向け、広げて机の上に置いてください。
- 6 解答用紙だけを提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

受験番号						出身中学校		氏名	
------	--	--	--	--	--	-------	--	----	--

問題は、次のページから始まります。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。句読点や記号等は字数として数えること。

デジタルの中に蓄えられる莫^{ばく}だいな情報を、人間に新たに与えられた「外部脳」だと解釈し、これが人間の脳の効率化につながるのだという見解が増えた。外部脳を持てば、自分の脳を記憶装置にせず、思考の場として徹底できる、そう考える専門家も少なくない。

情報にたどり着くまでの労力や時間を軽減できるようになったことのメリットは大きい。そのメリットとは、たんに楽になったということだけではなく、情報へたどり着く労力や時間が軽減されることで、自分の頭で思考するエネルギーや時間を生み出す余地が大きくなったことだ。しかし、思考のチャンスが無駄にしたり、極端な「外部脳」依存に^a陥ると、それはデジタルに人間を奪わせる格好の材料になる。もう既に、味方であるはずのデジタルに知らず知らずのうちに人間がむしばまれているのかもしれない。表現はいささか^bキョウレツかもしれないが、われわれが未来にわたってデジタルと良い関係で共存していくために、ここで気づいておかねばならないことがある。それこそが、「※¹人間は考える葦^{あし}」でなければならぬということだ。デジタルがもたらす利便性に溺^{おぼ}れずに、「思考する努力」を重ねることだ。

社会が近代化し、便利な移動手段が発達したことで、人間は慢

性的な運動不足に陥り、それに伴う新たな病を患^{わづら}うようになった。その対策として、人間はビルの中にトレーニング施設をつくり、「運動する努力」を強いられるようになった。「思考する努力」も、もはやそれと同じ域に^cトツニウしつつある。

A、「思考する努力」の前に、ある一定の情報や知識は「自前化」する価値があることも理解しておきたい。外部脳の有用性は僕も認めるところだ。外部脳はわれわれの脳を補完し、考えるための土台を強化してくれる。しかし、自前化された情報や知識は、画期的な連想を生む礎^{いしずえ}となり、優れた創造をなすテコとなる。これは外部脳主体では難しい。①外部脳は、われわれにとつて新たなアドバンテージであることは間違いない。自前化できる情報や知識の限界を外部脳がカバーしてくれる。ただしそれは、自前化した情報や知識の基盤があつてこそのものであることを忘れてはならない。外部脳はあくまでもその補強の材料に過ぎない。自前化した基盤と外部脳、それらと思考が掛け算されてこそ、優れた創造をなすことができる。

人間の力をデジタルに奪われず、**B** デジタルを人間の新たな力とするために、われわれはここで思考することの意味を見つめ直さなければならない。そんなことは分かっている、いま

はそう思っていたとしても、われわれが一度乗り込んでしまったこのデジタルの船は、時に激しく揺れながら、思いもよらぬ速度で海の上を進んでいく。その中でわれわれは、「デジタルの船は極楽さ。ここが危険だなんて大げさだし、自分には^dムエンの話だよ」といついつい^②たかをくくって過ごしてしまう。そうこうしているうちに、この船はあつという間に周りの景色を変えてしまう。景色のめまぐるしい変化に振り回されているうちに、人間にとって重大なことをあつさり失念させてしまう。いやそれどころか、失念していること自体にすら気づかせてくれない。このデジタルの船の中で、「思考する習慣」を維持し続けるということは意外と難しいのである。

しかし、「思考する習慣」というものは、ちよつとした努力の積み重ねで培^{つちか}われるものだ。

C、インターネットの検索で発見した情報をうのみにせず、取り入れるべき情報を取捨選択し、選択した情報の背景や核心を探ることも思考を磨くプロセスとなる。何から何まで検索ばかりに頼らず、時にはまず自分の頭で考えてみたり、まとめた読書から情報や知識を自前化する機会を持つことも良い。

また、文章を書く場合はちよつと自己改革し、定期的に長めの文章を書いてみる。二千字、三千字と、段階的に文章量を増やし

てみる。一定量の文章をしつかり書くという作業は、必然的に思考を伴うものだ。

このような小さな習慣の積み重ねであっても、デジタルの船の中で思考する力を維持、育てることはできる。

本来、デジタルの船に乗り込んだわれわれには、これまでの偉大な創造よりもっと偉大な創造を成し。遂^はげるチャンスが与えられているはずだ。デジタルの船がわれわれを導こうとしている世界は、きつと新たな可能性にあふれた大陸なのではないだろうか。その大陸にたどり着くための原動力は、人間の思考だ。デジタルの船の中でこそ、思考することの価値を理解し、情報や知識と思考の掛け算というテコの原理を働かせよう。それにより、すばらしい発見や発明、創造がなされ、よりよい未来が切り拓^{ひら}かれるはずだ。

デジタルに人間を奪われるのではなく、豊かな未来のためにデジタルを生かす。人間から思考する力を奪うデジタルの力学は、まるで^{※2}未必の故意のようだ。しかしそれは、われわれ人間自身の気づきと努力で回避することができる。

だからこそ、人間は考える葦であり続けなければならないのだ。
(小川和也『デジタルは人間を奪うのか』による。一部改変)

(注) ^{※1}人間は考える葦…十七世紀フランスの学者パスカルの言葉。人間は弱い葦(水辺に自生する植物)のようであっても、考えることによって何ものよりも強い存在になっているという意味。

^{※2}未必の故意…本来は法律用語であるが、ここでは、積極的な意思はなくても、そうなっても仕方がないという消極的な意思はありと見られるという意味。

問一 傍線部 a ～ e の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。(なお、送り仮名が必要なものは、ひらがなで正しく送ること。)

問二 空欄 A ～ C に当てはまる語の組み合わせを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア (A) そして B むしろ C たとえば イ (A) ゆえに B せめて C だから
- ウ (A) ついては B まるで C あるいは エ (A) かつ B つまり C しかし

問三 傍線部 ①「外部脳は、われわれにとって新たなアドバンテージである」とあるが、これはどういうことか。次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 外部脳は、思考の基礎となる自前化された情報や知識では充足しきれない領域を補強するという点で、役に立つということ。
- イ 外部脳は、一定の情報や知識を自前化すると同時に思考の基盤を作り上げる働きをしているという点で、便利だということ。
- ウ 外部脳は、労力や時間をかけずに新たな情報や知識を自前化して思考を維持しているという点で、合理的であるということ。
- エ 外部脳は、思考する努力をしなくても自前化できる情報や知識の連想を生む基礎となるという点で、都合がよいということ。

問四 傍線部 ②「たかをくくって過ごしてしまう」について説明した次の文章の、空欄 I 、 II に入る適当な語を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただし、I は四字、II は五字とする。

社会の中で急激な発展を遂げた I の利便性にとらわれた人間が、 I によって II が奪われるという危険性を軽視して、自分には関係ないものとしてやり過ごしてしまう様子。

問五 次の表は、生徒が本文を読んでまとめたものである。空欄 I IV に入る適当な語を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただし、**I**は五字、**II**は四字、**III**は七字、**IV**は十三字とする。

外部脳としてのデジタル	①情報にたどり着くまでの I を軽減する。 ②われわれの II し、考えるための土台を強化する。
自前化された情報や知識	① III して、読書から情報や知識を得る。 ②段階的に文章量を増やし、 IV ことで思考を重ねる。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。句読点や記号等は字数として数えること。

犬のしつけ教室に通う善治が、犬の訓練士である大我とともに、犬のトレーニングから戻らない美島千草を探しに出かけ、山中で見つけた場面である。千草は飼犬（チワワのキャンディ）を警察犬にするために、訓練所の近くの山でトレーニングをしていた。

「これは本当にあたしが悪かったと思ってます。もう※¹こんな靴履いてキャンディと一緒に歩いたりしません。あたしが怪我するくらいだったら別に構わないと思ってたけど、今回みたいにキャンディが危ない目に遭ったら嫌だから」

きっぱりとした口調で宣言して、千草は膝の上でウトウトしているキャンディを撫でた。

「ごめんね、キャンディ。これまでトレーニングにつき合ってくれてありがとう。でもやっぱり、あたしみたいな素人の付け焼刃じゃ無理だったね」

掠れた声で呟く千草の姿は、地面に座り込んでいるせいばかりでなくいつもより小さく見える。何か励ましたいところだが上手い言葉が見つからない。もどかしくリードを握りしめていたら、大我がおもむろに口を開いた。

「プロも素人も関係ない。もともと犬の訓練は『できなくて当たり前』ぐらいの気持ちで挑むのが普通だ」

特別千草を励ましたり慰めたりしようとしているようには聞こえない、淡々とした口調で大我は続ける。

「二歩進んで二歩下がるどころか、百歩進んだと思ったら九十九歩戻るような毎日だ。途方もなく根気がある。訓練所で俺が面倒見てる犬たちだって、今まで当たり前前にできたことが突然でき

なくなることなんかざらにある」

②千草はわずかに顔を上げ、大我の胸の辺りに視線を向ける。

「……そういうとき、どうしたらいいんですか？」

「また何度でも教えるしかない」

大我的答えは簡潔で、確信がこもっていた。

「その繰り返しだ。何度だって教えてやればいい。もう無理だなんて放り投げるのは早いんじゃないか？それにこの犬は、飼主がそばから離れてもずっとここを動かなかった。俺たちが近づいたときは警戒して吠えた。あんたの身を案じてのことだ。賢い犬だ」

千草がゆつくりと顔を上げる。予想外に無防備なその表情を見たら、善治も黙っていられなくなって声を上げた。

「美島さん、キャンディの無駄吠えをやめさせられたって言うてたじゃないですか。美島さんはちゃんとした飼主だと思います」

大我は善治を振り返り「無駄吠え？」と不思議そうな顔をする。善治が簡単に「ケイイを説明すると、へえ、と大我は感心したような声を上げた。

④「この犬が根気強くあんたのトレーニングにつき合ってたのはそのせいだな」

不思議そうな顔をする千草に、大我は嚙んで含めるような口調で言う。

「あんたの言うことをきいて無駄吠えをやめたら周りから叱られなくなった。だからそれ以降の訓練も、自分の状況をよくするためにやってくれてるんだって信じてる。その信頼があったから、

その犬は厳しいトレーニングにも懸命についてきたんだよ」

大我が言う通り、千草のトレーニングはいつも厳しかった。でもキャンディは、千草に「もう一度」と求められれば何度でも応じていた。その視線はいつも千草を追っていて、次の指示を待ち構えているようにも見えた。

たとえ上手く指示に従えなくても、いつも千草の言葉を待っていた。

「その信頼に応えるべきだ。ここで放り出すな」

周囲の木々がざあつと揺れ、遅れて、シヤメンから風が吹き上がってくる。

千草の髪が緩く揺れ、その気配に反応したようにキャンディが顔を上げた。千草を見上げ、その表情を読み取ろうとしているかのように小首を傾げる。

千草は視線を下げると、ゆらゆらと尻尾を揺らすキャンディを見て、夢から覚めたような顔をした。

「……あたし何やってんだろ」

千草の視線がずるずると落ちていく。そのまま顎が胸につくほど深く俯いた千草は、ネイルの剥がれた泥だらけの手で顔を覆ってしまった。

「キャンディのためとか言いながら、結果を出して自分が褒められたただけかもしれない。キャンディがきたらあたしもできるとか、変な願掛けしてただけかもしれない。ほんと、ごめんキャンディ。あたし……」

千草の言葉はだんだんと小さくなり、善治たちの耳まで届かない。

(注)※1こんな靴…千草はサンダルを履いていた。

だが、千草の膝の上にいたキャンディには聞こえたようだ。キャンディは千草の腕に前足をかけて立ち上がると、顔を覆う千草の手の甲を舐め始めた。

千草を慰めるような、あるいは励ますようなその姿を、善治は不思議な気分で見詰める。

犬に人間の言葉は伝わらない。それなのに、どうして犬は人の心の揺らぎを理解しているかのように振る舞えるのだろうか。どうしてこんなにもひたむきに、人間に寄り添おうとしてくれるのか。(俺たちは間違っただけだから)

⑥ 遠い昔に出会った犬のことを思い出していたら、千草が顔を覆っていた手を下ろした。

もしかしたら泣いているかもしれないと案じていたが、キャンディを抱き上げた千草は何か吹っ切れたような顔で笑っていた。

「ごめんね、キャンディ。あんたもともと賢いんだから、焦らないで時間をかけてトレーニングしよう。キャンディにできることが増えてくのは嬉しいし、他の人にもいっぱいキャンディのこゝと褒めてほしいもん」

千草はキャンディを抱きしめ、そのクビスジに顔を埋める。

「あたしも、キャンディが胸張って自慢できるくらいの飼主になれるよう頑張るから」

声には強い意志が込められていて、千草はきつとその言葉を実現するだろうと思った。

(青谷真未『ステイ！ ぼくとシェパードの5カ月の戦い』による。一部改変)

問一 傍線部 a の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。(なお、送り仮名が必要なものはひらがなで正しく送ること。)

問二 傍線部 ①「付け焼刃」の意味を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 強引なやり方 イ 危険を伴う行動 ウ 情熱的な励まし エ その場しのぎの技術

問三 傍線部 ②「千草はわずかに顔を上げ」たのはなぜか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大我から、犬の訓練には根気が必要だと怒られて、落ち込んだから。

イ 大我から、素人にはできなくて当たり前だと慰められて、嬉しかったから。

ウ 大我から、プロでも同じように奮闘していると聞いて、驚いたから。

エ 大我から、教えた分だけ犬は成長すると励まされて、勇気が湧いたから。

問四 傍線部 ③「善治も黙っていらなくなつて」とあるが、善治は何をしたくなつたのか。本文中から七字で抜き出して答えなさい。

問五 傍線部 ④「そのせい」の内容をまとめた語を、本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問六 傍線部 ⑤「手で顔を覆ってしまった」から ⑦「顔を覆っていた手を下ろした」に変化した千草の気持ちについて、次の土田さんと

中西さんの会話を読んで、空欄 I に入る適当な語を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただし、

I は十一字、II は四字、III は十一字、IV は四字とする。

土田さん…千草は、善治や大我の言葉を聞いて、今まで厳しいトレーニングをしてきたのは、
顔を覆ってしまったんだね。 I だけだと気づいて

中西さん…しかし、それでもキャンディは II に、千草に寄り添おうとして、手の甲を舐めてくれているよ。

土田さん…そうだね。そのキャンディの思を受け止めて、頭を切り替えた千草は、手を下ろして、 III で笑ったんだね。

中西さん…そこには、キャンディが自慢できるくらいの飼主になれるように頑張ると言う IV が込められているんだね。

問七 傍線部⑥「遠い昔に出会った犬のことを思い出していたら」の主語は誰か。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大我 イ 善治 ウ 千草 エ キャンディ

三

もしもタイムマシンがあつたら、あなたはどの時代に行きたいですか。理由もあわせて書きなさい。
ただし、題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、百六十字以上、二百字以内で書くこと。